

気温ぐんぐん真夏日 日田で32.9度



日田市で、年最初の真夏日となる最高気温32.9度を記録。龜公園で水遊びをする子どもたち=13日午後2時半

大分県内は5月13日、移動性の高気圧に覆われて全域で晴れ、気温が上昇しました。日田で32.9度を記録し、同日の最高気温では全国1位でした。

①記事中にある、「夏日」と「真夏日」は、それどういうことですか。

②一方、冬の気象用語の「冬日」と「真冬日」は、それどういうことですか。

日傘や帽子 小まめに水分補給

熱中症対策しっかり

気温の上昇で心配されるのが熱中症。毎年、夏時季にかけて救急搬送者が相次いでおり、県健康対策課は「また体が汗をかくことに慣れてないため、熱中症になる恐れがある。日差しをよけたり、水分を小まめに取るなどの対策」と注意を促している。県によると、6～9月の熱中症がその疑いがある救急搬送者は2010年49人▽2011年50人▽2012年47人。死者は10人が2人、12年が一人だった。時期は7、8月が多い傾向にあるという。

予防法として①日傘の使用や帽子の着用②小まめな水分補給③日陰を利用した休憩などがある。「本格的な夏を迎える前に、適度な運動をして体の発汗作用を上げるのも大切」と同課。

搬送者の半数以上を占めるのが高齢者。高齢になると暑さに対する鈍感になったり、体温の調節機能が低下するため、同課は「温度計などで気温を見ながら行動してほしい」と話す。室内でも熱中症が発生する可能性があり、「エアコンや扇風機を利用し、部屋に熱がこもらないように」と呼び掛けている。

夏本番前に「発汗作用上げて」



「こんなに暑いとは」日傘を差して歩く観光客=13日午後1時28分、日田市豆田町

(2013年5月14日朝刊1、19面)

③気温の上昇で心配される「熱中症」。予防法としてどのようなことが大切と書かれているでしょう。また、記事中に書いてあるほかにないか、考えてみよう。

日田、全国1位の暑さ

県内は13日、移動性の高気圧に覆われて全域で晴れ、気温が上昇した。日田で32.9度(平年25.5度)を記録し、今年初の真夏日となった。同日の最高気温では全国1位。

大分地方気象台による、県内12地点で気温25度以上の夏日となった。各地の気温は▽玖珠、大鍋29.9度(同24.1度、24.9度)▽院内29.4度(同23.6度)▽大分25.7度(23.2度)で6月上旬も度(23.2度)で6月上旬も度となり、暑さが全国でかなり並み。湿度も低めで、かなり乾燥している。

14日も晴れ、予想最高気温が日田で30度、大分で25度となっており、暑さが全国でかなり並み。湿度も低めで、かなり乾燥している。

く見込み。日田市では昼前から気温がぐんぐんと上昇。市内中ノ島町の「亀山公園」では、親子連れが水路で水遊び。大曲悠斗ちゃん(4歳)と希呼ちゃん(1歳)の兄妹は「冷たくて気持ちいい」と、はだしへになって歩いていた。豆田町では観光客らが日傘を差したりしながら散策。岡山県から訪れた松本士雄さん(72)は「岡山を出発するときは長袖だったのに、半袖に替えた。こんなに暑いと何とも暑い」と驚いていた。